

2020（令和2）年度 第1回苫小牧市美術博物館協議会

日 時：2020年10月15日（木）

13時30分～14時30分

会 場：苫小牧市美術博物館1階研修室A

出席委員 揚妻委員、居島委員、奥本委員、菊地委員、鈴木委員、橋爪委員、林委員
山形委員、山田委員 計9名

欠席委員 金田委員

事務局

（教育部）五十嵐教育長

（美術博物館）武田館長、細矢主査、遠藤主査、江崎主任学芸員、岩波学芸員、
沖津学芸員、大谷学芸員

（欠席）佐藤学芸員、小杉学芸員

-
- 1 開会 (進行) 遠藤主査
 - 2 委嘱状交付 五十嵐教育長
 - 3 挨拶 五十嵐教育長
 - 4 委員紹介 (出席委員9名自己紹介後、美術博物館職員7名も紹介)
 - 5 議事
 - (1) 正・副会長の選出
 - (2) 令和元年度事業報告について
 - (3) その他

(1)について（仮議長：武田館長）

仮議長が進行を行う。委員より「事務局一任」の声があがり、その後事務局案が示され、会長に揚妻委員、副会長に林委員を選出、承認された。以下、美術博物館規則第19条第5項に従い、会長が議長に付く。

(揚妻議長)

議事に入る前に、議長（会長）から館長に対して、「現在、館はどのような方針に基づいて活動しているのか。」という質問があり、令和2年3月に策定した「苫小牧市美術博物館実施計画」に沿って、館長が館の活動方針を説明した。また、本協議会は、館の運営に対して意見を述べる機関であることを付言した。

以下、揚妻議長が議事を進めた。

(2)について「美術博物館」、「勇武津資料館」の順で事務局から説明を行う。（細矢主査・江崎主任学芸員）

< 質疑応答 >

・特別展の「第一洋食店の 100 年と苦小牧」は企画の段階で入館者数は何名を予定していたかの質問があり、5000 人を目標数値としている旨を回答。

・入館者数の推移についての質問に、一昨年度は 34,382 人、昨年度は 28,000 人と減少したが、ここ数年は約 3 万人で推移している旨を事務局より回答。

昨年度少なかった原因は新型コロナウイルスの関係で 2 月、3 月の入館者数が極端に少なくなったことが原因の一つ。

・カムイノミ・イチャルパについて、開催場所も含めて説明を望む声上がる。

主催は苦小牧アイヌ協会、当館は共催という形で実施。当館には縄文時代の遺跡の発掘の過程で出土したアイヌ人骨と思われる人骨が 3 体あり、それらを供養する目的で 6 月にイチャルパという慰霊の儀式を実施している。地下収蔵庫において保管されている人骨を供養した後、館外に設置したテントにおいて、市長や議長など来賓を招き、協会主催で供養の儀式を行っている。ただ、コロナの関係で今年度に関しては中止としたことを事務局より説明する。

・各展示会におけるポスター・チラシの配布とは、主にどこに配布、郵送されているのかという質問があり、市内の学校をはじめ、社会教育施設、行政など市内各所に配布している旨を説明。

道内の美術館・博物館にも配布している。当館のチラシを他館で掲示してもらい代わりに、他館のものも当館で掲示するなど、お互いに協力し合う形で配布している。他にご協力いただけるお店やお寺等にも配布し、できるだけ多くの方の目にふれるように努めている。また、ポスターの掲示を断る店舗が多い傾向にあるが、特に大型店やコンビニ等、人が多く集まる場所への掲示を促す働きかけをしてほしいとの要望があった。

・特別展や各企画展の来館者数のうち、小中学生の割合について質問があり、直近 2 年のデータとして 2018 年度は幼稚園、小中学生、高大生で約 26%、高大生は少し少ないが、これを含め学生、児童、生徒の割合は約 4 分の 1。2019 年度においても同様であることを説明。他館の状況では、25%くらいが子どもたちの割合であり、およそ平均程度である。今年度はまだ半分ほどだが、約 33%で少し多めに推移しているところであることを付け加える。

・特別展で図録「第一洋食の 100 年と苦小牧」を発行しているが、美術以外の分野においても来館できなかった人が、後からどのような展示だったか分かる記録の作成を検討してほしいとの要望が出る。

できれば図録形式で形を残せばベストだが、多額の予算が必要になり、作成するのは大変難しい面もあることを説明。

ただ、例えば「NITTAN ART FILE」のように記録集といった形の冊子などを作成するなど、仕組みづくりをこれから考えていきたいと回答。

(HP用)

簡単でもいいので、何か残していただけると、後世に美術博物館の記録としても貴重なものになると思うので、検討してほしいとの要望が出る。

また、電子媒体等のデジタル化を望む声もあり、いただいた意見を参考にしたいと事務局より回答。

・LINE等での周知について質問が上がり、今現在、館としてHPとFacebook、Twitterの3つの広報媒体を活用しているが、LINEは苫小牧市の公式アカウントがあり、特別展などの際に依頼して情報を発信したい旨を事務局より回答。

・玄関が真っ暗で外から館内が見えないので、LEDライト等を設置して入館者の増加にもつなげてほしいと要望が上がった。

(3)について、「令和元年度苫小牧市美術博物館自己点検評価」に関して武田館長より説明。

以上